

第16回市民協働指針検討委員会 議事録

日時	平成19年8月9日(木) 18:45~21:00
場所	202会議室
出席者	委員 泉谷 清、富塚 広、鎌倉 洲夫、小杉 恵津子、吉田 愛子 久保 純一、松本 史典、瀬川 真弓 恵庭市 企画財政部次長 北林 剛 広報広聴課長 吉田 真俊

1. 質疑及び意見交換

事務局： 前回到ひきつづき、8ページ途中から修正していきます。

*以下、修正内容については別添のとおり。

- ・「参加」、「参画」の使い方について全体見直しの時、統一する。
- ・P5 3) 市民と行政と協働の領域 に市民、行政が協議して領域等を決めていく旨の記載を追加する。



④ 参加協働機会の拡大

自主的活動や協働の取り組みへの関心を高めるため、イベントや研修会、ボランティア講習会などを開催し、市民の幅広い参加や協働のきっかけづくりを進めま

ず。
~~パブリックコメント制度や審議会などの運用が常に適切なものになるよう継続的に改善していくとともに、ワークショップなどについても積極的な活用をして~~
~~いきます。さらに、参加や協働を実感できる新たな事業の創出を進めます。~~

また、団体相互、市民相互の情報交換・交流、活動の推進拠点として、「恵庭市交流プラ

さらに、~~活動を、それぞれの目的や課題に応じて~~
~~ザ」などの活用促進や市民自ら運営する「えにわ市民プラザ~~「えにわ市民プラザ」を支援します。

⑤ 協働の評価と公開

市民と行政の相互理解を深めるとともに市民協働のまちづくりの広がりとその改善のため、既に実施されている行政評価制度については、市民協働を評価基準の主要な観点に含め、さらに、市民参加による協働事業の評価手法について検討を進めます。また、その評価結果を公表するとともに、評価による改善を次の協働事業に活かしていく、マネジメントサイクルの確立を図ります。

~~＜行政評価制度＞
行政の政策、施策、事務事業等について、実施前、実施中、実施後に成果を重視した評価を行い、次の実施に活かしていく制度。~~

